

第 327 回昭和の森自然観察会

早春の生き物たち

長江英子（千葉市）

日 時：2019 年 3 月 10 日（日）13 時から 15 時 天気：曇り

参加者：45 名（大人 21 名、子ども 24 名）他 1 名 指導員 12 名

担当指導員：川北紀子・長江英子

予報は曇りマーク、日差しはないものの春めいた午後、広場にはテントを広げる親子が大勢います。春の気配に誘われて大勢の子どもたちが集まってくれました。

早春の昭和の森でどんな生き物をみつけられるかな、との問い合わせからスタート。まずは坂道を降り、下の谷津田へ。途中クロモジのつぼみが膨らんでいます。

山すその水たまりにニホンアカガエルの卵塊を見つけます。少し行くとギシギシにコガタルリハムシが何匹も。その先の土手にはオオイヌノフグリのブルーの花、よく見るとフラサバソウも小さな花を咲かせて同居しています。どちらも帰化植物であること。在来のイヌノフグリが少なくなっていることを学びます。田んぼに着くとニホンアカガエルの卵塊がたくさん、もうオタマジャクシになっているものも見られます。ニホンアカガエルは手足に吸盤がないので、コンクリート護岸では乗り越えられず、斜面林と田んぼが土水路でつながっている昔ながらの湿田が産卵場所。生活排水など流入しないきれいな湧水の環境が大事で他の生物も生きやすい環境、との説明を聞き、畔を歩いて間近に卵塊・オタマジャクシを見ます。子どもたちの目が輝きます。50 名を超える観察会はなかなか前に進みません。土手では子どもたちがツクシを見つけました。ツクシの胞子茎スギナは栄養茎、地下茎でつながっていることを説明。ニホンアカガエルを観察した後はお花見広場までの坂道をまた登ります。

サクラの蕾はまだ固いのですが、足元にはタンポポ。カントウタンポポとセイヨウタンポポを見つけ、違いはなに？と問い合わせます。小学生の男の子がガクの違いを説明してくれます。梅林ではウメ・サクラ・ナシのような落葉樹の花は幹などに蓄えた養分で開花すること、木のしくみなど説明。その先にはサンシュユ、ミツマタの黄花が満開。香りを楽しみながら展望台からの眺めを堪能しました。子どもたちはカエルの卵塊・オタマジャクシに感動し、初めて参加の親子も嬉々としていました。長い列の所々での参加指導員のアドバイスに感謝の観察会でした。



ニホンアカガエルの卵塊に目が輝きます！ ツクシを探そう！